

Passme!

パスミー!



開館後を見据えた
プログラムの準備も
じゅくり進行中!

開館まであと3年半。みんなで盛り上げていきましょう!

NEWS & TOPICS

01 東郷青児と前田寛治、ふたつの道

SOMPO 美術館と当館の所蔵品から、東郷青児と前田寛治の代表作を展示。さらにパリに学んだ藤田嗣治や佐伯祐三らの作品も紹介します。彼らに影響を与えたクールベ、ルノワール、ピカソといった巨匠の作品も必見です。

会期 2021年11月20日(土)~12月26日(日) ※12月6日(月)休館
会場 鳥取県立博物館 第1,2特別展示室
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般800円(団体・前売・大学生・70歳以上は600円)
◀ 東郷青児《ピエロ》1926年/油彩・キャンヴァス/SOMPO美術館所蔵 ©Sompo Museum of Art, 20023

02 小早川秋聲 旅する画家の鎮魂歌

従軍画家として知られ、鳥取と縁の深い日本画家・小早川秋聲。戦前はアジア・欧米各国を旅し、多彩な作品を残しました。本展は画業初期から晩年に至るまでの代表作や資料をもとに、“異色”の日本画家の全貌に迫ります。

会期 2022年2月11日(金・祝)~3月21日(月・祝)
※月曜休館(3月21日を除く)
会場 鳥取県立博物館 第1,2特別展示室
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般800円(団体・前売・大学生・70歳以上は600円)
◀ 小早川秋聲《長崎へ航く》1931年/絹本着色/個人蔵

参加者、随時募集中!

美術館建設地定点観測プロジェクト

「アートの種まきプロジェクト」の一環として、美術館建設地の定点観測を行っています。建築が完成する様子やその周辺エリアの変化を記録しながら、美術館開館までの待ち遠しい時間を一緒に楽しみませんか?

詳細はこちら →

お問い合わせ
鳥取県立博物館
美術振興課
TEL 0857-26-8045
鳥取県立美術館建設地定点観測

今号の運び人 passer

舞台は 東郷池 〒682-0711 鳥取県東伯郡湯梨浜町松崎



湯梨浜町を拠点とする「合同会社うかぶLLC」

(左から)
共同代表
蛇谷りえさん
三宅航太郎さん

ゲストハウス「たみ」(湯梨浜町)や「Y Pub&Hostel」(鳥取市)の運営をはじめ、グラフィックを中心としたデザイン、大学との企画やアートプロジェクトのコーディネートなどを行っている。
http://ukabullc.com/

開館に向けて鳥取各地を白い箱が旅します



Passer's Recommend

1 水郷祭

東郷池から上がる湖上花火大会でおなじみの水郷祭。コロナ禍で2年連続中止になってしまったのは寂しいですね。

2 二十世紀梨

出荷時期には、松崎駅の裏手にある大きな選果場が2週間だけ稼働し、賑やかになります。夏の終わりの風物詩。

jig theater

2021年7月にオープンしたばかりの映画館。東郷池を一望する丘の上の旧小学校にあって、今がすごく楽しみ!

Q

アートの魅力って、どんなところ?

A

・「万物の研究者」とも言えるアーティストたちが、さまざまな分野の垣根を飛び越えて、研究や実験を見せてくれることです。(三宅)

Q

鳥取県立美術館に期待することは?

A

・関わり方がさまざまでも、美術館に行った人が「私が新しくなった」という感覚が生まれる美術館がいいですね。(三宅)

・最近、京都国立近代美術館で開催されていたピロロッティ・リストの個展を観に行って、手法やジャンルを越えた自由でパワフルな発想に「キヤー! やばーい!」ってなったんです。暮らしや仕事のなかで、「もうダメだ」って限界を感じたとしても、扉はどこにでもある場所であってほしいです。(蛇谷)

三宅さん・蛇谷さんへのロングインタビューは Webメディア「totto」にて公開中!



15年にわたって美術振興課の学芸員として活躍してきた尾崎さんが、2021年度より当館の新館長に就任しました。美術館の整備を進める尾崎さんに、美術館の役割や鳥取県立美術館への想いを伺いました。

INTERVIEW

— 館長として、これから挑戦してみたいことについてお聞かせください。

鳥取県立博物館は、来年で開館50周年を迎えます。節目の年に向けて、記念の展覧会や事業の準備を進めたいと考えています。新しい美術館の開館を控えて、現在の自然、人文、美術の3分野が揃って実施する最後の機会となる事業です。日本でもほかに例がない県立の総合博物館として、他館では実現することのできない展覧会や普及事業を学芸員たちと一緒に考えていきたいですね。

— 鳥取県立美術館の計画も進行中です。あらためて、尾崎さんが考える美術館の役割、魅力についてお聞かせください。

いくつもの美術館で学芸員を務めてきた経験、とりわけ兵庫県立近代美術館勤務時に阪神・淡路大震災に遭遇した体験から、私は美術館や博物館は水や空気のように人が生きていくうえで必要不可欠な文化的ライフラインであるという信念をもっています。美術館で優れた美術作品に出会うことは、人生を豊かにし、他者を理解するうえで大きな意味をもつものなのだと考えています。

鳥取県立博物館 館長

尾崎信一郎 Shinichiro Osaki

兵庫県立近代美術館(現・兵庫県立美術館)、国立国際美術館、京都国立近代美術館に勤務後、2006年より鳥取県立博物館勤務。専門は近代美術・現代美術(日本とアメリカの戦後美術)。

鳥取県立博物館にて尾崎館長が企画した 心に残る展覧会 BEST3

1 日本におけるキュビズム
—ピカソ・インパクト(2016)
いくつかの美術館と協力して日本の近代美術史の書き換えに挑戦しました

2 彫刻家 辻智堂展(2010)
日本を代表する鳥取県出身の彫刻家の全貌を見渡しました

3 中ハシクシゲ展
—連鎖する記憶—(2007)
現代美術を展示することの楽しさと苦勞、両方を味わった展示です

「とつとりの未来をつくる」
美術館が生まれます!

HISTORY OF MUSEUM

2021 (R3)
2/6

教育普及専門員が
オンライントークイベントに
ゲスト出演

Webメディア「totto」が主催するオンライン
トークに、教育普及専門員の佐藤・山本が
出演しました。「なんだこれ?サークル」*の
“ぶちょう”こと岩瀬拓郎さん、totto編集長の
水田美世さんと一緒に、「表現することと表現を
味わうことを地続きに考える」をテーマに、当館
での活動を紹介しながら、お話ししました。

*「なんだこれ?サークル」とは、子ども
と大人と一緒に、自分だけの表現
(=なんだこれ?)を楽しむながら追求
していくサークルです。
くわしくはtottoウェブサイトへ



収録中の様子

トークイベントはこちらから
ご覧いただけます



3/20

美術館盛り上げ部会が、美術館建設地で
ワークショップイベントを開催

美術館を応援する地元の方々を中心となって
「今しかできないことを!」と企画され実現した
イベント「Art Academy -2021-とっとり」に、当館
普及チームやワークショップづくり隊(以下、
WSづくり隊)のメンバーも参加しました。特別
ゲストとして、倉吉市出身で東京造形大学教授
の石質直之さん率いる「ONZO」も登場。生演奏
に合わせて10㎡の布に絵を描くワークショップ
では、子どもたちの歓声が上がりました。その
ほか、美術館施設整備チームによる美術館の
建築をVR(=仮想現実)で見られるブースに
は行列ができ、多くの注目を集めました。



主催者

門脇一樹さん(鳥取県中部中小企業青年中央会)
多くの方々のご協力のもと「Art Academy -2021-とっとり」
を開催することができました。たくさんの来場者の思い出
に残るイベントになったと思うので、この思い出を胸に、
引き続き、建設中も完成後も楽しんでもらえたらと思
います。ありがとうございました!

大久保つくしさん(絵画教室 ツクリエ・WSづくり隊)
メガネを工作するコーナーをひらきました。ひとつのテー
ブルで知らない人同士が出会い、材料をシェアし、無意識
に誰かのアイデアをキャッチしながらの制作。子どもたち
がさまざまな(アイデアの)種を拾い合う体験が生まれた
ことが嬉しく感じました。

WS出店者



3/24・29

ミュージアムサロン11・12を開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催日を
延期していたトークイベントを、ようやく開催! ゲスト
とともに、未来の美術館のことや地域社会における
文化活動とそのあり方などを、カジュアルな雰囲気の中
なかで考え、自由に語り合う場を設けました。



#11
3月24日
会場:鳥取市気高町
喫茶ミラクル
ゲスト:宮原翔太郎さん
(建築家)



#12
3月29日
会場:鳥取市河原町
西郷地区公民館
ゲスト:北村恭一さん
(建築家)

3/26

『Pass me!』4号目発行!



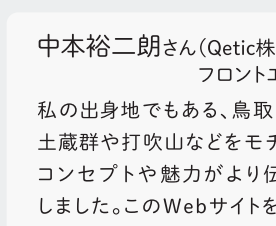
3/13には、倉吉未来中心で
発送準備作業も行いました!



3/31

「鳥取県立美術館プレサイト」
「とっとりアートLab.」はじまる!

鳥取県出身のクリエイターが制作を担当したプレサイトが
オープン。美術館の概要や開館に向けたイベント・募集情報を
発信しています(「Pass me!」過去の号も公開中!)。また同時
に、Facebookページ「とっとりアートLab.」も公開。「みんな
でつくる美術館」の実現に向けて、鳥取県立美術館パートナーズ
と県民が気軽につながり交流できる場としてひらかれています。



中本裕二朗さん(Qetic株式会社 デザイナー/
フロントエンドエンジニア)
私の出身地でもある、鳥取県中部地域の白壁
土蔵群や打吹山などをモチーフに、美術館の
コンセプトや魅力がより伝わるようデザイン
しました。このWebサイトを通して、さまざまな
交流が生まれていくことを願っています。



「鳥取県立美術館
プレサイト」は
こちらから



「とっとり
アートLab.」は
こちらから

4/10

「受贈記念 垣田堅二郎
コレクション展」が開幕

倉吉市在住の垣田堅二郎さんから、版画作品を
中心に167点の美術作品の寄贈を受けたことを
記念し、展覧会を開催しました。会場には、身近な
素材で「版」をつくるコーナーを設置。版画体験
を楽しみながら、版画の魅力に触れていただき
ました。近現代の著名な版画家による名作揃いの
作品群は、美術館のひとつの核になりそうです!



4月9日に行われた
内覧会の様子



洗濯ばさみや蚊取り線香を
使ってつくられた版

Collection Recommend

「このぼり」のぼりに
おススメの名作

前田寛治 《ものを喰う男》
1924年/油彩・キャンヴァス



学芸員
友岡真秀 選

寂寞が滲む男の丸めた黒い背中。
しかし、男の周囲には白い斑が熱気
のように立ち昇り、フォークを握り
しめる大きな拳も力強い。相対する
表現によって、逆に生きることへの
確固たる意思が浮かび上がります。
コロナ禍に立ち向かう私たちの姿
とも重なる作品です。

解説
鳥取県出身の前田寛治は1923年に渡仏し、
セザンヌやクールベらの作品に感化
されて絵画研究を進め、独自のリアリ
ズムの構築に至る。本作品は、滞欧期に同
郷のマルキスト・福本和夫と親交を深め
るなかで、労働者階級や工場を集中的
に描いた時期に制作された。

5/1

コロナ禍に負けず
「毎週土曜はアートの日!」
イベントを続々開催

「土曜日に博物館に来ればいろんなアート
に出会える」をコンセプトに始動した「毎週
土曜はアートの日!」も、14年目に入。ワーク
ショップやギャラリートーク、アートシアター
など、多様なジャンルを取り上げながら活動
を続けています。この日は企画展に合わせ、
たくさんの版で巨大なこのぼりをつくる
ワークショップを開催しました。



完成後、エントランスに展示されたこのぼり

WS参加者



北直己さん(小学5年生)
ただ色をつけたり、布に模様を押し
ただけだと思っていたのに、最後には
思ったより立派なこのぼりが出来上
がり、びっくりしました。博物館での講座
は、いつも誰でも気軽にできるよ
うなことで、すごく達成感があるもの
になるのが嬉しいです。また参加したいです!

5/29

WSづくり隊!
公開ミーティング

WSづくり隊が美術館建設地での
ワークショップを企画することが決まり、
公開ミーティングを実施。6月には、
本番さながらのリハーサルも行いま
した。美術館開館に向け、引き続き、
元気に活動を続けています!

6/14

鳥取短期大学にて
対話型鑑賞ファシリテーター養成
のための連続講座をスタート

鳥取短期大学と連携して行っているファシリテーター
養成講座は令和2年度にスタート。2年目となった
今年度は、対話型鑑賞体験、学内各所の作品を活用
した学生同士のファシリテーション体験に加えて、
「きくスキルの向上」に特化した講座、鳥取県立博物
館美術部門企画展に来館した小学生を対象とする
ファシリテーション実践講座を行っています。

6/25

県内高等教育機関の連携事業*として、
「鳥取県立美術館」をテーマとした
特別講座が開催される

住居デザインや建築の分野をめざす県内の学生らが、
鳥取県立美術館設計者の長谷川龍友さんによるレク
チャーを聴講。公共建築の特徴や魅力に触れました。
※本企画は、鳥取県内にある5つの高等教育機関、自治体および
経済・医療福祉団体で形成する組織が、地域のさらなる活性化
を図ることを目的に、さまざまな取り組みを行う「とっとりプラ
ットフォーム5+α」の事業として開催されました。



長谷川さんによるレクチャーの様子

講座紹介

これまでに開催した講座 : 会場:鳥取短期大学

受講生



- 6/14 コレクション宅配便
- 6/17 コミュニケーション講座
「アート・コミュニケーションのスキルを磨く
～感性を育てたいあなたへ」
講師:ナラティブコミュニケーション教育研究所
所長 佐藤敬子先生
- 6/29 学内の作品を使った
ファシリテーション
体験講座

縄本すずさん
(鳥取短期大学 国際文化交流学科 1年)
自分では気づかないような考え方や感じ方
を知ることができて楽しかったです。普段の
生活では、「そんな風に見える!?!」と驚いたり、
共感したりすることは、なかなか無いので新鮮
でした。自分の意見に共感してもらえると
嬉しいし、ほかの人の意見を聞いて、新たな
発見や不思議だと思うことと出会う時間が、
より深い充実した鑑賞へとつながりました。

今後開催予定の講座 : 会場:鳥取県立博物館
12/8 小学生に対するファシリテーション実践



体験講座の様子

開館後を見据えたプログラムが
ますます盛り上がります!